

舞鶴工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	アナログ信号処理 I
科目基礎情報				
科目番号	0154	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科	対象学年	3	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	「新訂応用数学」(大日本図書)			
担当教員	芦澤 恵太			

到達目標

- 1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
- 2 伝達関数を用いたシステムの入出力表現ができる。
- 3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。

ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ラプラス変換とその逆変換が計算できる。	ラプラス変換とその逆変換の定義はわかつているが計算できない。	ラプラス変換とその逆変換が計算できない。
評価項目2	伝達関数を用いたシステムの入出力表現ができる。	伝達関数を用いたシステムの入出力関係がわかる。	伝達関数を用いたシステムの入出力表現ができない。
評価項目3	フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。	フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換の定義はわかつているか計算できない。	フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)

教育方法等

概要	コンピュータ技術には、計測・制御信号、音声信号等の信号処理技術も重要である。本授業では、信号の最も基本的な処理手法であるフーリエ級数展開、フーリエ変換、ラプラス変換および連続系システムの解析手法について学習する。
授業の進め方・方法	板書を中心に講義を進めるが、プリント等で課題を課す。
注意点	<p>【成績の評価方法・評価基準】 到達目標の達成度を基準として、定期試験の成績 (60%)、ノート・レポート (40%) を総合評価する。 【備考】 科目専用のノートを用意すること。 【教員の連絡先】 研究室 A棟3階 (A-323) 内線電話 8966 e-mail: ashizawaアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1週	シラバス内容の説明、信号処理の基礎	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	2週	ラプラス変換とフーリエ変換、部分分数展開	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	3週	ラプラス変換の定義と例	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	4週	基本的性質	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	5週	ラプラス変換の表	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	6週	逆ラプラス変換	1 ラプラス変換とその逆変換が計算できる。
	7週	線形システムの伝達関数	2 伝達関数を用いたシステムの入出力表現ができる。
	8週	定期試験	
2ndQ	9週	試験問題の解説、周期 2π の関数のフーリエ級数	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	10週	一般の周期関数のフーリエ級数	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	11週	複素フーリエ級数	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	12週	演習	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	13週	フーリエ変換と積分定理	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	14週	フーリエ変換の性質と公式	3 フーリエ級数展開およびフーリエ変換とその逆変換が計算できる。
	15週	期末試験	
	16週	試験返却とまとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	制御	伝達関数を用いたシステムの入出力表現ができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---